2010年
1月26日(火)
第 96 号

狭山エリア新聞

【問合せ先】ASA狭山
Tel：04-2952-2246
【発行所】狭山エリア新聞編集室
Tel：049-265-1886
Fax：049-265-1887
【記事提供】狭山CATV

第56回狭山市成人式

1月11日（月）、狭山市市民会館大ホールで「第56回狭山市成人式」が挙行されました。

式は2部構成で行われ、第1部は入間川・奥富・柏原・水富地区、第2部は入間・堀兼・新狭山・狭山台地区在住者を対象に行われました。

オープニングでは、市内で活動している「MJSダンスグループ」による演技が披露され、新たな門出を祝福しました。

市長式辞では、仲川狭山市長が、「これからの時代を担う皆さんには大きな期待が寄せられていることを心に留めてもらいたい、様々な課題を持つ社会状況の中で活力ある都市を維持発展させることは急務な課題である。そんな中で狭山市では、人をつくり人を活かす仕組みを考えている。新成人の皆さんにも積極的に市政に参加してもらい、その英知とエネルギーをまちづくりに活かすことにより元気な狭山を築きあげてほしい」と呼びかけました。

新成人の主張では、市内の各中学校出身の代表者が1人ずつ、成人を迎えての感想や将来の展望、家族やまわりの人々への感謝の気持ちなどを壇上で発表しました。西中出身の和田さんは、こんな大人になりたいと思われるような大人になるために、基本的なマナーを守ろう！と呼びかけ、同級生を起立させ、ともに関係者に感謝の挨拶をしました。

いずれの発表者もはきはきとした口調で、また堂々とした態度で発言し、さわやかなエネルギーが感じられる会場となりました。

この日は、曇りがちな天気となりましたが、会館前は、久しぶりの再会を喜び合い、記念撮影や談笑を交わすシーンも多く、あでやかな振り袖姿と若ものたちの熱気であふれかえっていました。

今年は、1704名の新成人が誕生しました。

石窯で焼くパンづくり講座

1月14日（木）、農村環境改善センターを会場に、里芋を使った石窯で焼くパンづくり講座が開催されました。

この講座は、地域農業への理解と地産地消の意義を深めることを目的としています。

12月11日に行われた1回目は12人が参加し、里いもあんぱんと堀兼のぱん、冬のスープづくりが行われました。

2回目の今回は15人が参加し、狭山栄養士グループ「菜」協力のもと、里芋などの地場野菜数種類を具とした「ファームパン」や、フランスパンのような「グリッシーニ」というパンが作られました。

堀兼の小麦粉は、かりかりしたパンを作るのに適しているのだそうです。

今回は調理室の一角に保育室を設けたところ、若い親子も多数参加し、地域の里芋や野菜に関心がもたれました。

参加者からは、今後も、地域の野菜や地域に伝わる料理を題材とした講座を行って欲しい等の声が聞かれました。

飯能信用金庫入曽支店で、強盗発生時の初動対応訓練

1月15日（金）、飯能信用金庫入曽支店で、強盗発生時の初動対応訓練が行われました。

狭山警察署生活安全課が銀行職員に対し強盗事件など、発生直後の迅速で的確な対応を高めてもらうための訓練で、定期的に行われています。

訓練では、強盗犯人に扮した狭山署員2名が、客や行員に対し、模造短刀を突きつけ「動くとさすぞ」「静かにしろ」「金を出せ」などと大声で脅し、行員が札束を渡すとすぐさま逃走。その後、行員の通報により制服警官2名が現場に到着し、行員から犯人の姿や犯行が行われたときの状況などについての聴取が行われました。

実践さながらの訓練の後、同署の柳田生活安全係長が、銀行職員に日ごろから防犯意識をもってほしいとしながら、犯人に抵抗したりしてけがをしないように、そして何より警察への素早い通報を心がけること、犯人が残した遺留品がないか気を配るなどの注意点を呼びかけました。

続いて、外に移動し、クラックボールの投てきの練習を行い訓練は終了しました。

（財）狭山市勤労者福祉サービスセンター15周年事業「よしもとde初笑い」

1月17日（日）、狭山市市民会館小ホールで、（財）狭山市勤労者福祉サービスセンター15周年事業「よしもとde初笑い」が開催されました。

（財）狭山市勤労者福祉サービスセンターは、市内の中小企業で働いている従業員及び、事業主の人たちのための福利厚生の充実を目指し、生活の安定と企業の健全な発展に寄与することを目的として、昭和61年に狭山市勤労者福祉共済会として発足、その後平成6年7月1日に財団法人として新たにスタートしました。今回は財団法人として発足してから15周年の記念事業です。

開演前に前座として水野の水栄太鼓の演技が披露されました。

今回、吉本興業の若手芸人「ザ・パンチ」「大西ライオン」「ジャングルポケット」「5GAP」「少年少女」が出演しました。

公演の最後にはお年玉抽選会が行われ、よしもと芸人グッズ30組、野菜詰め合わせチケットなどが用意されました。当選番号が呼ばれるたびに会場からは歓声があがりました。

若手芸人のコントや漫才、抽選会での景品に満員の会場内は大いに笑い、賑わいました。

【お知らせ】
（財）狭山市勤労者福祉サービスセンターは、平成22年4月より狭山市産業労働センター1階に移転します。

体験学習　初めての香席

1月16日（土）、狭山市立博物館で、体験学習「初めての香席」が開催されました。

これは、3月に開催予定の春期企画展「魅せる…～女性を彩る服装と美容～」にちなんだもので、午前は服装に関連して「輝糸香（きいとこう）」、午後は美容に関連して「美人香（びじんこう）」の香席が開かれました。

香は奈良時代に仏教とともに、その儀式にまつわる文化の一つとして日本に伝わりました。以来、日本人は様々な形で香と関わりをもち、室町時代には「香道」という独特の文化を創り上げました。

香席では、和歌や古典文学に基づいたテーマに沿って2種類以上の香を使いテーマを表現し、参加者は香りで表現された古典文学の世界を鑑賞し、香りを聞き分けます。

午後の部では、はじめに講師から今回のテーマである小野小町や「源氏物語」の話や、香席の過ごし方、香の聞き方などの説明が行なわれました。

香席では、はじめに「試香」と呼ばれる3種類の香りを聞きます。その後、「本香」という10の香りが順不同にたかれ、2炉ごとに、「試香」がどのような組み合わせになっているかを用紙に記入します。それぞれの組み合わせには、「源氏物語」にちなんだ「葵の上」や「紫式部」などの名前がついており、また、「本香」には「試香」でたかれていない香りもあります。参加者は皆、緊張した面持ちで回ってきた香を聞き、微かな香の記憶を頼りに答えを考えていました。

午前と午後、合わせて80名が参加、香を取りまく日本文化の楽しさと奥深さを味わいました。